# 台風第２３号に対する農作物等管理技術対策について

令和７年１０月１０日
埼　玉　県　農　林　部

台風第 22 号に続き、台風第 23 号が接近しております。現在、日本の南にあり、13 日頃関東へ最接近する予報です。今後の台風第 23 号の進路等の気象情報に注意してください。台風の進路により、影響が予測される場合には以下の資料を参考に、早めの対応をお願いいたします。
（前：事前対策、後：事後対策）。

## 共通事項

前１　安全第一とし、台風が接近中に河川や用水路が増水している場合にはほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。
２　排水路や明きょの点検・整備を行い、ほ場の停滞水が速やかに排出されるよう対策を講じる。
３　作物により防風網を設置するなど、強風に備える。
４　事前準備は台風接近前に終え、通過中は屋外での作業やほ場確認を避ける。

後１　通過後、天候が安定したら、病害虫の発生を防ぐため薬剤防除を行う。
２　安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
３　作付け予定ほ場が滞水した場合、適期作業ができるよう速やかな排水に努める。

## 園芸用ハウス

前１　園芸用ハウスでは、フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れて補強する。
２　特に、いちご等で天井部のみ被覆しているハウスは入念に点検し、対策を講ずる。
３　台風襲来直前対策
- 出入り口、天窓、サイドをしっかり固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
- 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。
- 明きょ等を設置しても大雨による施設内の浸水が心配される場合には、出入口に土のうを設置する。

## 水　稲

前１　刈取適期に達しているほ場では、速やかな収穫に努める。高水分籾を収穫する場合は、適切な扱き胴の回転数と籾の流量に注意する。
２　収穫後の稲わらがほ場から流出すると、用排水施設の機能に支障をきたすの

で、すき込み等の流出防止対策を講じる。
3　水田に仮置きしているコンバインは速やかに水田から引き揚げる。
4　調製後袋詰めした製品は、雨漏りや吹込み、浸水による被害を回避できる場所に保管する。

後1　冠水したほ場では、速やかに排水する。
2　倒伏した場合、穂発芽の発生が懸念されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。高水分籾を収穫する場合は、適切な扱き胴の回転数と籾の流量に注意する。
3　特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」が発生している河川から取水している地域では、水利施設等に溜まったゴミの中に「ナガエツルノゲイトウ」の切断茎が混入している恐れがあるので、拡散しないよう適切に処理する。

## 大　豆

前1　明きょや暗きょを点検し、必要に応じて排水路の整備を行い、速やかに排水できるように努める。

後1　浸冠水したほ場では、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。
2　排水が悪く、地力の高いほ場では、立枯性病害（茎疫病・黒根腐病等）を対象として収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。
3　強風で莢が擦れたほ場では腐敗粒の増加が懸念されるので、紫斑病と合わせて収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。
4　台風前にべと病の発生が見られたほ場では、風雨により発生が増加するので、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

## 野　菜

### ◎露地なす

前1　強風に備えて、支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。

後1　通過後は、停滞水による湿害や病害（青枯病、半身萎凋病、褐色腐敗病等）の発生を防ぐため、速やかな排水に努めるとともに薬剤防除を行う。
2　風雨により被害を受けた果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

### ◎施設きゅうり

後1　台風通過後の急激な湿度低下による葉焼けを防止するため、施設の換気は徐々に行うとともに、遮光資材を活用して急激な温度上昇を防ぐ。
2　施設の密閉や多湿によりべと病、褐斑病の発生が懸念されるので速やかに薬剤防除を行う。

### ◎いちご

前1　雨よけハウスでは強風による倒壊を防ぐため、ビニールを縛り上げる等の対策を講じる。

後1　通過後は、炭そ病の発生・まん延が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。
2　遮光資材を積極的に活用し、台風通過後の急激な温度上昇・乾燥を回避する。

3　本ぽが浸水した場合は、水中ポンプ等により強制的にほ場外に排水する。

**◎ねぎ**

前1　強風による倒伏防止に備え、土寄せのできるものは、早めに実施する。

後1　ほ場作業が可能になり次第、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病・黒腐菌核病等を対象に薬剤防除を行う。

2　収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害拡大が懸念されるので、ほ場作業が可能になり次第、速やかに収穫・出荷を行う。

**◎ブロッコリー、キャベツ、はくさい**

前1　防虫ネットや寒冷紗等で被覆している場合は、強風にあおられないようトンネルを点検・補強し、被覆資材のすそは確実に土中に埋める。

後1　風雨により軟腐病、黒腐病、べと病、黒すす病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

2　天候が回復次第、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。

3　畝の土壌が流亡した場合は、株を直し、株元に軽く土寄せを行って株を直し、倒伏やねじれを防ぐ。

**◎だいこん**

前1　降雨によるは種床の固結、発芽直後の茎葉の損傷を防止するため、寒冷紗や不織布などでべたがけ被覆し、止め具でしっかり固定する。

後1　葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

**◎やまといも**

後1　葉渋病や炭そ病の発生を防ぐために、速やかに薬剤防除を行う。

**◎にんじん、こまつな等葉菜類**

後1　葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

## 果　樹

前1　収穫できる果実は事前に収穫する。

2　棚や支柱、網などを補強し、樹体の揺れを少なくする。なお、収穫を終えたほ場の多目的防災網は収納する。

後1　落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。

2　葉・枝・果実の損傷が発生した場合は、防除暦を参考に病害対策の薬剤防除を行う。

## 花植木

前1　排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。

後1　倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。

2　破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。

3　浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。

４　キク・宿根アスター等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行う。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。
◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。
- 農林水産省　農薬登録情報提供システム
  https://pesticide.maff.go.jp/